

医薬品としてのワイン(ブドウ酒)

今回の登録販売者向け学習会のテーマに選んだので学習会時にはネタバレの内容になります。

1) 医薬品のワイン(ブドウ酒)とは

現在、医療用と一般用医薬品分野の中で販売されているワイン(ブドウ酒)は赤ワインで中北薬品さんの日本薬局方ブドウ酒のみのようです。私の若い頃は食欲増進薬として「ワイン(赤酒)リモナーデ」という院内製剤品の構成成分として日本薬局方のブドウ酒を利用していましたが、現在ではどのような利用をされているのでしょうか？またモルヒネの徐放性製剤が出てくるまでは塩酸モルヒネ液にブドウ酒を加えたブロンプトンカクテルががん性疼痛緩和のために1日5回分割投与されていました。

本質はお酒になりますから、成分・分量はエタノールを11.0～14.0%含み、酒石酸(ブドウ本体に含まれ酸味となる)を0.1～0.4%含んでいます。また酸化防止剤としてピロ亜硫酸カリウムが添加され、合成甘味料や合成着色料は含んでいない製品になります。要するに日本薬局方の製法に準じて作られ申請登録され日本薬局方という名称付与を許された“ブドウ酒”であって、他の赤ブドウ酒との違いは無いと考えてよさそうです。先日、一般用医薬品のワインの宣伝ポスターをある薬局さんで見ましたが、知っている方がどれほどおられるか分かりませんが「サイボーグ009(セボトイ)」の9人のサイボーグ達とギルモア博士を加えた10人のイラストと共に「眠れない」「食欲がない」などに**ゼロゼロワイン!**と書かれていました。ナインとワインを引っかけた完全な親父ギャク的な発想で売り出しているようです。サイボーグ009を知る世代の特に男性をターゲットにしているという話でした。

2) ワイン(ブドウ酒)の効能・効果

医薬品である以上、効能・効果や用法・用量も設定されています。ここでは効能・効果を取り上げますが、医療用も一般用も全く同じで以下のようになっています。①～③の実際の記載はあくくりにまとめられているので恐らく同じ機序により①～③の効果が得られ、④と⑤は服用するとその症状が改善され、⑥は食事療法に利用されると解釈できますが、それぞれの効果はブドウ酒のどのような作用によってもたらされるのでしょうか？「機序⇒」の空欄に答えを書きエビデンス等を考察してみてください。

①食欲増進

機序⇒

②強壮(体を丈夫で元気よくすることの意味と解釈して)

機序⇒

③興奮

機序⇒

④下痢

機序⇒

⑤不眠症

機序⇒

⑥無塩食事療法

機序⇒

3) ちなみにサイボーグ009のメンバーとは



左図は中北薬品さんのポスターのメンバー部分を切り取った写真になります。サイボーグ001から009の全員が揃っていますが、皆さんは彼らの番号との対応付けができますか？

ちなみに図の上右から順に

- 002：ジェット・リンク。アメリカ出身の長髪(右側)
 - 005：ジェロニモ・ジュニア。アメリカ原住民出身モヒカン刈り
 - 008：ピュンマ。アフリカ出身。小柄な黒人
 - 003：フランソワーズ・アルヌール。フランス出身の女性
 - 009：島村ジョー。日本出身の主人公(左側の茶髪の男)
 - 001：イワン・ウイスキー。ロシア出身。赤ちゃん
 - 004：アルベルト・ハインリヒ。(旧)東ドイツ出身
 - 007：グレート・ブリテン。イギリス出身
 - 006：チャンチャンコ。中国出身
 - アイザック・ギルモア博士。サイボーグ手術した科学者(一番下)
- ※当時は007やら0011などスパイ物が流行っていました。

4) ブドウ酒の効能・効果と作用機序の考察案

さて、以下2)項の回答というか考察案になります

- ①**食欲増進**：エタノール自体や酒石酸の酸味が唾液や胃酸分泌を増加させて食欲を増すと思われます。古くよりリキュールなどの酒類が食前酒として利用されているのはご存じのとおりです。
- ②**強壮**(体を丈夫で元気よくすることの意味と解釈して)：おそらく①食欲増進から体に栄養を付けて元気にするのもかもしれません。
- ③**興奮**：エタノールによる脳内報酬系のドーパミン分泌促進作用で多幸感や興奮を呼び起こすと推測できます。興奮の意味や意図が不明ですが、もし眠気覚ましに利用するのであれば飲み過ぎは逆に神経抑制に作用するため逆効果になりそうで個別の用量設定がかなり難しい印象があります。
- ④**下痢**：ブドウ酒というかブドウに含まれるタンニン類が下痢を抑えると考えられます(白ワインでは効果は弱い?)。止瀉薬でタンニン酸アルブミンが利用されるようにタンニン酸類は下痢治療に利用されてきた歴史があります。ただ用法用量の1回15～60mLの服用で下痢が治るのかは不明で、逆にエタノールによる胃腸刺激で下痢を悪化させる可能性があるかもしれません。
- ⑤**不眠症**：③の興奮作用とは逆になりますが酒量増加と共に脳内神経の興奮を抑えて眠気につながっていきます。エタノールの**基本的な作用は神経活動抑制**で様々な機序が報告されています(ラング・ゲル薬理学)。本来の睡眠(覚醒系ホルモンと睡眠系ホルモンのバランス調整)とは別の脳内神経抑制のため不眠症改善用としての利用が推奨されていないのはご存じの通りだと思います。
- ⑥**無塩食事療法**：無塩食事療法自体が不明でしたが、恐らく高血圧患者用の減塩食事療法の塩に替わる調味料の一つの候補となるという意味では無いかと思われます。適量以上の飲酒は長期的に血圧を上げるとされているので使うなら調理中にアルコール分を飛ばす利用が適切でしょう。

宣伝用ポスターでは「**眠れない**」、「**食欲がない**」等に使うと書いてありましたが、実際に使うとすれば①**食欲増進用**に食前酒として利用するのが適当かもしれません。しかし販売価格は**1本120mLで970円**とありますから、かなり高い価格になります。スーパーで販売している安いワインでも十分な効果が得られると思いますし、それだけお金を出すのなら少し高級なワインを買ってもおつりが来そうです。いずれにせよ医薬品の分類とは言え**依存性**もある**お酒**なので注意が必要です。(終わり)